

伊雑宮の護り



しくみ

- 比良山古墳 530.25km - 伊雑宮岩座 - 大沼浮島 530.25km (530.255km)
- 妙見山 530.25km - 大沼浮島 - 伊雑宮禁足地 530.25km (530.255km)

頂角・右極

大沼浮島

湖畔にある大沼浮嶋稲荷神社（祭神/宇迦之御魂神）の神池とされ狐の形をしている。沼には大小の葦の島が風や流れに関係なく浮遊し、江戸時代には国の数 32 あり、その動きで吉凶を占っていたとされる。沼は白竜湖とも呼ばれ弁財天が祀られている。大円寺『朝日嶽縁起』（1505 年）によると、朝日岳の麓に御手洗の「大富沼」があると記されている。

白鳳 9 年（681）役の小角（役の証覚・役の行者）が弟子の覚道を連れて出羽路に来た折、大谷川（朝日町大谷）のほとりで梵字が記された板碑が流れくるのを見つけ、川をさかのぼり、60 余りの島が浮遊する神池大沼を見つけた。湖畔に浮島稲荷大明神を祀り、弟子覚道を別当（大行院）とし朝日岳修験が行なわれた。建久 4 年（1193）には寒河江荘地頭となった大江広元の進言により源頼朝の祈願所になり、その後も大江家、徳川家、最上家にも祈願所として崇敬された。国指定名勝。山形県西村山郡朝日町大沼

備考/浮島は、現在は数も減り、岸につき動かないことが多いが、動く時は流れや風に関係なく意志があるかのように動き回り驚く。役の小角は梵字が書かれた板碑が流れてきたのを見つけたのだから、すでに大沼は異教徒の浮島信仰の地だったはず。稲荷神社の神池とされるが、「大富沼」が大沼なら元々は出雲系「富一族」の祀る沼だったのだろう。大朝日岳にも大富観音が祀られていた。元々弁財天や龍神の神池に稲荷神が祀られたのだと考えられる。あるいは、730 年に「大



沼社を南西の丘に移す」記述があるが、その時に稲荷社にすり替えられたのかもしれない。いずれにせよ、古いしくみはほとんどが稲荷神社ではなく大沼の鳥居の立つ「出島」（写真）が起点となっている。弁財天を祭神とする大沼浮島社（仮称）はここにあったはず。全国に散らばる浮島神社の総本宮ではないか。多くの神社の神池に浮島のごとく島が作られ弁財天や市杵島姫が祀られているのも本来は分社だったのではないだろうか。池に囲まれた古墳すらも浮島に見えてくる。そして、弁財天は瀬織津姫とする考えがある。古代史を探る時、きっと浮島信仰は重要な鍵になるにちがいない。



底角

伊雑宮禁足地（岩座があるらしい）

式内大社 皇大神宮（伊勢神宮内宮）の別宮の一社。度会郡大紀町の瀧原宮とともに、「天照大神の遙宮（とおのみや）」と呼ばれる。祭神/天照坐皇大御神御魂 伝 伊佐波登美命と玉柱命（瀬織津姫命）

804 年（延暦 23 年）の『皇太神宮儀式帳』では天照大神御魂とされる。中世から近世の祭神には諸説あり、中世末以降は伊雑宮神職の磯部氏の祖先とされる伊佐波登美命と玉柱命（または玉柱屋姫命）の 2 座を祀ると考えられた。伊雑宮御師である西岡家に伝わる文書において、祭神「玉柱屋姫命」は「玉柱屋姫神天照大神分身在郷」と書かれる。同じ箇所「瀬織津姫神天照大神分身在河」とある。両神はつまるところ同じ神であると記されている。明治以降、伊雑宮の祭神は天照大神御魂一柱とされる（神宮要綱）。志摩市磯部町上之郷 374



妙見山

日置浜城跡。主郭には妙見宮が鎮座している。標高 30m 程の独立丘陵。京都府宮津市字日置

左極

比良山古墳

地域のシンボリックな山。南東部の緩い傾斜面に前方後円墳の比良山古墳が見つかった。5 世紀頃の古代人の墓。前方後円墳は、古墳の中に葬られることを朝廷に認められた有力者の中でも特に強大な力を持つ豪族のボスにしか許されない特別な墓。日向市の古代史を考え直す必要があるとされる。神武天皇は日向から東征に赴くこととなる（神武東征）。宮崎県日向市

備考

伊雑宮社殿ではピンポイントにならないので、社殿奥の禁足地に瀬織津姫の岩座があるらしいことに注目した。大沼浮島と妙見宮との同距離、そして宮崎の比良山古墳からの同距離が交差する所に伊雑宮禁足地の岩座ポイントを見つけた。

通常なら見つけられる十字架型封印のしくみがいくら探しても見つからない。もしかしたら、施されなかった原型ではないだろうか。1.瀬織津姫の岩座を祀る伊雑宮があった。古代出雲族が大沼浮島の気を引き寄せるために、同距離に妙見山を作った。2.神武東征後にやってきた日向族が伊雑宮を自分たちの守りにするために、首長の陵墓を大沼浮島と同距離に作り、双方から



気を引き寄せ護りとした。そしてこのしくみにはないが、3.大和朝廷が蝦夷の聖地大沼浮島や大朝日岳、早池峰山を封印し、気を自分たちが独占するためにその三角形を十字架型しくみになるよう神社を作った。(他頁の十字架封印型のパターン) だから、右側の三角形は大地系が多く、左側の勝頂角は武神など天孫系の強い神様になっているのではないだろうか。

